



校長室だより～湘南の空～

第12号

令和4年9月22日

パンデミックを乗り越え、まさに、日本一の体育祭を実現することができた。観客の受け入れに対する配慮、天候を考慮したプログラム順の見直し等、難しい状況の中、卓越した判断をした。

改めて、体育祭実行委員会、総務長、パートリーダー、体育祭を支えたすべての湘南生や担当の先生方に心より感謝したい。また、体育祭に協力して下さった保護者の皆様、地域の皆様にお礼を申し上げる。

各カラーの仮装にはエンターテインメントとして確かなメッセージがあった。バックボードからは未来に立ち向かうエネルギーを感じたし、競技への一生懸命さは紛れもなく湘南の宝だ。

「何を表現し、どう伝えるのか」各カラーがぶれることなく追究し、各パートが協力して素晴らしいものが結実したということだ。これは、将来、生徒の皆さんが世界を変えていくための力になるに違いない。

3年生の受験は、理念・目標を掲げ、それに向かってぶれずに努力していくという意味で体育祭と同じであり、体育祭に向けたエネルギーをそのまま勉強にぶつけてほしい。志望する大学への進学は、きっと叶う。

1年生、2年生はこの3年生の勇姿を見て、最も困難な道に挑戦してほしい。皆さんの今後の活躍を心より楽しみにしている。

最も困難な道に挑戦し続けるための条件

人は挑戦していく中で、自信を失いかけることもある。人が最も困難な道に挑戦し続けるための条件を挙げてみよう。熊谷晋一郎著「当事者研究」によると、苦い経験で失われた自己の物語を回復するためには、

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1 寝ること2 他者とのコミュニケーション3 身体感覚と感情の取り戻し |
|---|

の三つが重要だと報告されている。

「寝ること」と「他者とのコミュニケーション」によって、私たちは自らの経験の抽象化や、既存の知識への統合を行っていく。

さらに、「身体感覚と感情の取り戻し」として、好奇心をもって、「いま、ここ」の身体感覚に注意を向け続けながら、過去のトラウマティックな経験を構成する認知的、感情的、感覚運動的な諸側面を編み上げ、理解可能な言語に翻訳することを学ぶ必要がある。

バラバラのエピソード記憶を、「それらすべては私が経験したもの」という感慨とともに一つに統合するためには、各々のエピソードに直面したときに生じた、たった一つしかない自分の身体反応の記憶が結び付いている必要があるという。

「好きなことを見つけてとことんやってみる」精神をもつ湘南生には理解しやすい理論ではないか。多忙であっても「睡眠」「対話」を大切にするとともに、借り物ではない「自らの身体感覚と感情」で体得し、自分の頭で統合していく。未来の世界を様々な分野から動かすだろう湘南生には是非留意していただきたい三つの条件である。

自立は、依存先を増やすこと

最も困難な道に挑戦する湘南生である。勉強のこと、進路のこと、部活動のこと、友だちのこと、家族のことなど、様々な変化の中で、ストレスがたまって、体や心に負担がかかることもある。そんな時には、一人で悩みを抱え込まずに、先生、仲間、ご家族、あるいは周囲の信頼できる大人に相談してほしい。7月22日の全校集会でも述べたが、「自立は、依存先を増やすこと」。相談できる相手、場所を大切にしていきたい。

「ファーストペンギン」の振る舞い

京セラ創業者の稲盛和夫氏が死去した。「20代半ばで立ち上げた京都セラミック（現京セラ）を、売上高1兆円を超えるグローバル企業に育てただけではない。1980年代の通信自由化では京都の一介の部品メーカーでありながら、日本電信電話公社（現NTT）に果敢に挑戦した。稲盛氏が先陣を切って第二電電（現KDDI）の旗揚げに動くのを見て、巨大な電電公社との競争に尻込みしていた当時の国鉄や電力会社なども通信参入を決めた。今風にいえば、群れから離れてリスク覚悟で最初に海に飛び込む『ファーストペンギン』の振る舞いである。」（日本経済新聞 2022/8/31）

稲盛和夫著「アメーバ経営」によると、稲盛氏の判断基準は「人間として何が正しいか」。それは、公平、公正、正義、勇気、誠実、忍耐、努力、親切、思いやり、謙虚、博愛、というような言葉で表される、世界に通用する普遍的な価値観である。

そして、稲盛氏のフィロソフィーは「全従業員の物心両面の幸福を追求すると同時に、人類、社会の進歩発展に貢献すること」であり、全従業員が積極的に経営に参加し、それぞれの立場で自らの役割と責任を自主的に果たそうとすれば、従業員はもはや単なる労働者ではなく、ともに働くパートナーとなり、経営者としての意識を持つようになるという。

稲盛氏は、2010年、破綻した日本航空の会長に就任し再生させたことでも知られる。同社に、京セラで培った手法を移植し、コストに鋭敏な企業文化をつくりあげた。

「あなたは世界をどう変えますか。」このような問いに立ち向かう湘南生に響く哲学ではなかろうか。海洋を自由に泳ぎ回るファーストペンギンは常に未来を見据え、家族のような仲間と旅を続けてきた。

生涯挑戦を続けた稲盛和夫さんに敬意を表するとともに、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。